

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	静岡文化芸術大学
設置者名	公立大学法人静岡文化芸術大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部等 共通 科目	専門 科目	合計		
文化政策学部	国際文化学科	夜・通信	42	52	41	135	13	
	文化政策学科	夜・通信			46	140		
	芸術文化学科	夜・通信			46	140		
デザイン学部	デザイン学科	夜・通信		156	198			
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

大学公式WEBサイト https://www.suac.ac.jp/education/program/

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	静岡文化芸術大学
設置者名	公立大学法人静岡文化芸術大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

大学公式WEBサイト

<https://www.suac.ac.jp/about/operation/executive.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤 の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	（前職）元静岡県公営企業 管理者・企業局長	令和4年4月1日～ 令和8年3月31日	法人経営担当
非常勤	（現職）京都大学名誉教授	令和4年4月1日～ 令和8年3月31日	教育未来担当
非常勤	（現職）浜松医科大学名誉 教授	令和7年6月1日～ 令和8年3月31日	研究未来担当
（備考）			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	静岡文化芸術大学
設置者名	公立大学法人静岡文化芸術大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 全ての科目において「科目概要」「学習到達目標」「DP(ディプロマポリシー)との関連」「授業の方法」「授業計画」「授業時間外の学習」「フィードバック」「評価の方法・基準」「テキスト」「参考文献」「受講上の注意事項」「外部公開」「授業に関する実務経験欄」「連絡方法」の欄を設け、記載している。 全学教務委員会で次年度シラバスのガイドライン、スケジュールを審議し、教授会にて作成依頼を行っている(非常勤講師には同内容を通知)。10月から作成作業を開始し、1月中を目途に完成、3月20日前後に公開している。	
授業計画書の公表方法	大学公式WEBサイト https://www.suac.ac.jp/education/program/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。 (授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 各授業科目では、学則第28条に基づき、試験その他の適切な方法により学修の成果を評価し、単位を与えている。授業科目の成績評価にあたっては、全学教務委員会において成績評価の方針を定め、これに基づき各授業科目の担当者が成績評価の具体的な方法を定め、シラバスに示している。本学では、シラバスの確認・点検を組織的に行っており、各授業科目の成績評価は、この確認・点検において、その適正を確認している。	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 本学においては、成績評価の基準及びGPAの算出方法を履修細則にて、次のとおり定め、学生に公表している。また、成績評価の方針(成績評価の分布の目安)を定め、各科目の担当教員に通知している。その上で、学期毎の成績分布の状況ならびに各学年・学科のGPAの数値を把握し、成績評価の適正化に努めている。	

【成績評価の基準】

評語	評点	G P	成績評価の基準
秀	100点～90点	4.0	当該科目の到達目標を極めて高い水準で達成している
優	89点～80点	3.0	当該科目の到達目標を高い水準で達成している
良	79点～70点	2.0	当該科目の到達目標を標準的な水準で達成している
可	69点～60点	1.0	当該科目の到達目標を最低限の水準で達成している
不可	59点以下	0	当該科目の到達目標を達成していない

【GPAの算出方法】

$$GPA = \frac{(\text{履修登録した各授業科目の単位数} \times GP) \text{の総和}}{\text{履修登録した各授業科目の単位数の総和}}$$

【成績評価の基準（成績評価の分布の目安）】

- ・「秀」は単位修得者の 10%程度を上限とする。
- ・「秀」と「優」の合計比率は単位修得者の 40%程度を上限とする。

客観的な指標の 算出方法の公表方法	履修の手引き（冊子）で公表 大学公式WEBサイト https://www.suac.ac.jp/forstudents/lesson/exam/
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 （卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要） 卒業認定の方針は、学部ごとの履修細則に明記し、毎年配付される履修の手引き（冊子）で周知している。 運用としては、学期始めのガイダンスや履修相談日において、事前に学生への指導を行い、学期中も指導教員や教務委員がその指導にあたっている。卒業判定時には、各学部の教務委員会・教授会でチェックしており、適切に実施している。 1 文化政策学部ディプロマポリシー （1）文化政策に関する幅広い知識を体系的に修得しており、人間や文化の多様性とともに、グローバル・ローカルの視点から、現代社会が直面するさまざまな課題についての的確に理解している。 （2）課題解決に必要な語学力、情報リテラシー、コミュニケーション能力、企画立案能力を身につけている。 （3）文化政策への強い関心を持ち、社会の様々な課題の解決に対し、主体性をもって、多様な人々と協働して取り組む意欲・態度を身につけている。 （4）文化政策に関する学際的・総合的な学習を経験し、社会の発展に寄与できる創造的な思考力を身につけている。	

2 デザイン学部ディプロマポリシー

- (1) デザインに関する幅広い知識を体系立てて修得しており、重要な課題への理解とその解決にあたり、デザインの果たす役割を考える力を身につけている。
- (2) 磨かれた感性と論理的な思考に基づき、社会に対しデザインを通して提案を行い、その実現をはかる技能を身につけている。
- (3) 社会のさまざまな課題に対し、主体性と高い倫理観をもってその解決に取り組む意欲と、多様な人々との協働を進める能力を身につけている。
- (4) デザインに関する学際的・総合的な学習を経験し、社会と文化に寄与できる創造的な思考力と提案力を身につけている。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

履修の手引き（冊子）

大学公式WEBサイト

<https://www.suac.ac.jp/education/education-policy/diplomapolicy2025/>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	静岡文化芸術大学
設置者名	公立大学法人静岡文化芸術大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	大学公式WEBサイト https://www.suac.ac.jp/about/operation/disclosure/finance/
収支計算書又は損益計算書	
事業報告書	
監事による監査報告（書）	
財産目録	—

2. 事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称： 対象年度： ）
公表方法：
中長期計画（名称：公立大学法人静岡文化芸術大学第3期中期計画 対象年度：2022年度から2027年度まで）
公表方法：大学公式WEBサイト https://www.suac.ac.jp/about/operation/disclosure/mediumplan/

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法：大学公式WEBサイト https://www.suac.ac.jp/about/operation/disclosure/mediumplan/
--

(2) 認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：大学公式WEBサイト https://www.suac.ac.jp/about/operation/disclosure/mediumplan/
--

(3) 学校教育法施行規則第172条の2第1項に掲げる情報の概要

① 教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文化政策学部
教育研究上の目的（公表方法：大学公式WEBサイト https://www.suac.ac.jp/about/education_info/purpose/ ）
（概要）

文化政策に関する体系的な学びを通して、人間や文化の多様性を理解し、社会の発展に寄与できる創造的な思考力を身につけ、現代社会が直面するさまざまな課題に取り組むことができる人材を養成する。

(ア) 国際文化学科

文化の多様性と価値に関する見識を備え、他者との対話を通じてグローバル社会の課題に多角的に取り組むことができる人材を養成する。

(イ) 文化政策学科

社会科学の知見や情報探索、社会調査等の手法を活用して現代社会の課題を考察し、その解決のための公共政策・経営戦略を立案、実行、評価できる人材を養成する。

(ウ) 芸術文化学科

芸術やアートマネジメントに関する理論的かつ実践的な知識を身につけ、芸術文化を振興し、地域を活性化する等、創造性をもって社会に貢献できる人材を養成する。

(エ) 文明観光学コース

文化政策学部の3学科共通のカリキュラムとして、文明史の観点から観光を捉え、持続しうる観光産業と多様な芸術・文化を融合できる人材を養成する。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学公式WEBサイト

<https://www.suac.ac.jp/education/education-policy/diplomapolicy2025/>

（概要）

文化政策学部では、本学部の教育研究上の目的に基づき所定の課程を修了し、以下に示す「知識・理解」、「汎用的技能」、「態度・志向性」、「総合的な学習経験と創造的思考力」を身に付けた者に、学士（文化政策学）の学位を授与する。

【知識・理解】

文化政策に関する幅広い知識を体系的に修得しており、人間や文化の多様性ととともに、グローバル・ローカルの視点から、現代社会が直面するさまざまな課題についての確に理解している。

【汎用的技能】

課題解決に必要な語学力、情報リテラシー、コミュニケーション能力、企画立案能力を身につけている。

【態度・志向性】

文化政策への強い関心を持ち、社会の様々な課題の解決に対し、主体性をもって、多様な人々と協働して取り組む意欲・態度を身につけている。

【総合的な学習経験と創造的思考力】

文化政策に関する学際的・総合的な学習を経験し、社会の発展に寄与できる創造的な思考力を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学公式WEBサイト

<https://www.suac.ac.jp/education/education-policy/curriculumpolicy2025/>）

（概要）

文化政策学部のカリキュラムは、全学科目、学部科目、学科科目で編成される。

主に1年次に配置された全学科目はキャリア形成、教養、必修外国語、スポーツ活動、総合の科目群からなり、学部科目は文化・芸術、政策・マネジメント、情報・リテラシー、観光の科目群からなる。そして、主に2年次以降に配置された、国際文化学科・文化政策学科・芸術文化学科の学科科目は、それぞれ専門性の高い科目群からなる。

3・4年次の演習、4年次の卒業論文等の作成においては、文化政策に関わる国内外の

諸問題についての研究に取り組む。

さらに、各自の関心に応じて多様な知識の幅を広げるために他学部・他学科科目を履修することができる。各学科の専門的な学びを補完するプログラムとして、学部内の他学科が提供する科目群を専門的に学ぶことができるオプション・スタディーズを設ける。そして、学部の壁を越えて、他分野の専門科目を学ぶことができる仕組みとして、文化政策学部の学部科目および学科科目と同等のものとしてデザイン学部の科目の一部を配置する。

【知識・理解】

文化政策に関する幅広い知識を修得するため、〈文化・芸術〉〈政策・マネジメント〉〈情報・リテラシー〉〈観光〉の4区分からなる学部科目を1年次から配当する。また、各学科の学科科目を通じ、人間や文化の多様性および現代社会が直面するさまざまな課題についての理解を涵養する。

【汎用的技能】

語学力を身につけるため、全学科目に必修外国語を配置する。情報リテラシーを身につけるため、全学科目及び学部科目に情報処理や統計に関する科目を配置する。コミュニケーション能力を身につけるため、3・4年次の演習では教員と学生の双方向コミュニケーションと討論形式による学生間コミュニケーションの活性化を重視する。また、全学科目のキャリア形成区分〈実践演習〉、各学科の学科科目、3・4年次の演習を通じ、企画立案能力を涵養する。

【態度・志向性】

学部科目および学科科目による体系的な学びを通じ、文化政策への関心を高める。全学科目のキャリア形成区分〈実践演習〉、各学科の学科科目、3・4年次の演習を通じ、社会の様々な課題の解決に対し、主体性をもって、多様な人々と協働して取り組む意欲・態度を涵養する。

【総合的な学習経験と創造的思考力】

〈文化・芸術〉〈政策・マネジメント〉〈情報・リテラシー〉〈観光〉の4区分からなる学部科目と各学科科目、3・4年次の卒業研究を通じ、文化政策に関する学際的・総合的な学習を経験させ、社会の発展に寄与できる創造的な思考力を涵養する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学公式WEBサイト

<https://www.suac.ac.jp/education/education-policy/admissionpolicy2025/>）

（概要）

文化政策学部は、本学部の教育研究上の目的に基づき、国際文化学科、文化政策学科、芸術文化学科の3学科を設置し、以下のような関心と意欲をもつ人を、積極的に受け入れる。

【国際文化学科】

- ・日本と世界の多様な文化に関心があり、それらを深く学びたい人
- ・外国語を使い、世界の人々と交流し相互理解を深めたい人
- ・ビジネスや国際協力、地域貢献を通して、グローバル社会で活躍したい人

【文化政策学科】

- ・社会と文化について総合的に学び、その問題を発見・解決したい人
- ・社会調査の方法、政策立案の手法を身につけたい人
- ・行政や企業、NPOなどで活躍し、地域社会と産業に貢献したい人

【芸術文化学科】

- ・文化・芸術とそれを取りまく社会について研究したい人
- ・芸術やアートマネジメントに関する実践的知識を身につけたい人
- ・文化・芸術を通じて地域を活性化し、創造性をもって社会に貢献したい人

また3学科ともに、入学者には、以下の基礎能力を身に付けていることを求める。

【知識・理解】

大学において幅広く学ぶために必要な基礎的知識・理解をもつこと。とくに人間や文化の多様性および現代社会が直面する問題を理解するための基礎となる知識をもつこと。

【汎用的技能】

大学で学ぶ上で基本となる論理的な文章を読む力および読解した内容をもとに自分で考えたことを説明・表現する力をもつこと。

【態度・志向性】

文化や社会の在り方への関心をもち、その中から課題を発見し追究していこうとする積極性をもつこと。

【総合的な学習経験と創造的思考力】

関心のある主題について多角的にとらえる力、および、社会の課題の発見や多様な人々との協働のために必要となる論理的思考力・表現力をもつこと。

高等学校などの各教科では、以下の基礎知識を身に付けておくことを求める。

国語：大学での学びの基礎となる読解力、論理的思考力、表現力とそれに関わる幅広い分野の基礎知識

外国語：異文化を理解する手段となる外国語の読解力、外国語による表現力とそれらを支える基礎知識

地歴・公民：日本を含む世界の文化・歴史及び現代社会についての関心と基礎知識

数学・理科・情報：自然科学が扱うさまざまな原理・現象への関心と論理的思考力及びそれらを支える基礎知識

学部等名 デザイン学部

教育研究上の目的（公表方法：大学公式WEBサイト

https://www.suac.ac.jp/about/education_info/purpose/

）

（概要）

時代とともに変化する人や社会の価値観、文化の多様性を視野に入れ、さまざまな人の立場から考えるデザインを基本に、快適に暮らせる社会及び環境を多様な分野から提案し、地域・国際社会の発展や文化の向上に貢献できる人材を育成する。

卒業の認定に関する方針（公表方法：大学公式WEBサイト

<https://www.suac.ac.jp/education/education-policy/diplomapolicy2025/>

（概要）

デザイン学部では、本学部の教育研究上の目的に基づき所定の課程を修了し、以下に示す「知識・理解」、「汎用的技能」、「態度・志向性」、「総合的な学習経験と創造的思考力」を身に付けた者に、学士（デザイン学）の学位を授与する。

【知識・理解】

デザインに関する幅広い知識を体系立てて修得しており、重要な課題への理解とその解決にあたり、デザインの果たす役割を考える力を身につけている。

【汎用的技能】

磨かれた感性と論理的な思考に基づき、社会に対しデザインを通して提案を行い、その実現をはかる技能を身につけている。

【態度・志向性】

社会のさまざまな課題に対し、主体性と高い倫理観をもってその解決に取り組む意欲と、多様な人々との協働を進める能力を身につけている。

【総合的な学習経験と創造的思考力】

デザインに関する学際的・総合的な学習を経験し、社会と文化に寄与できる創造的な思考力と提案力を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学公式WEBサイト

<https://www.suac.ac.jp/education/education-policy/curriculumpolicy2025/>

（概要）

デザイン学部のカリキュラムは、全学科目、学部科目で編成される。

主に1年次に配置された全学科目はキャリア形成、教養、必修外国語、スポーツ活動、総合の科目群からなる。そして、専門的な知識と高度な技術を段階的に身に付けられるよう、〈デザイン必修〉区分、〈デザイン選択〉区分の各科目群からなる学部科目を1年次から3年次にかけて体系的に配置する。また、各自の関心に応じて多様な知識の幅を広げるために他学部・他学科科目を履修することができる。学部の壁を越えて、他分野の専門科目を学ぶことができる仕組みとして、デザイン学部の学部科目と同等のものとして文化政策学部の科目の一部を配置する。

3年次後期と4年次前期には、総合演習・建築総合演習を配置し、実践的な応用力を身に付ける。そして、4年次後期には卒業研究・制作を配置し、4年間の学部教育の集大成として、修得した知識や技術を活用しながら、社会・産業、文化に関する課題解決に取り組む。

【知識・理解】

1. 社会とその基盤を形成する文化に関する幅広い知識の修得と理解を深めるため、全学科目の〈キャリア形成〉区分（導入、キャリアデザイン）と〈教養〉区分の講義科目を配置する。
2. デザインに関する幅広い知識を修得するため、〈デザイン必修〉区分の講義科目と〈デザイン選択〉区分（基礎理論）の科目を1年次から配置する。
3. デザインにおける専門知識を段階的に習得するため、〈デザイン選択〉区分（専門理論、学部間共通科目）の科目を体系立てて配置する。

【汎用的技能】

1. 論理的思考力、コミュニケーション能力を身につけるため、全学科目の〈キャリア形成〉区分（情報・データサイエンス、実践演習）と必修外国語を配置する。
2. デザインにおける基礎的な技能と磨かれた感性を養うため、〈デザイン必修〉区分の演習科目と〈デザイン選択〉区分（基礎演習）の科目を配置する。
3. デザインを通して提案し、それを具現化する上での確に表現できる技能を身につけるため、〈デザイン選択〉区分（専門演習）の科目を体系的に配置する。

【態度・志向性】

1. 社会のさまざまな課題の解決に資するデザインへの志向性を高めるため、高度な専門性を有する〈デザイン選択〉区分（専門理論、専門演習）の科目を2・3年次に配置する。
2. 社会の課題解決に向け主体性と高い倫理観をもって、多様な人々との協働を進める意欲・態度を育むため、デザイン学部の専門性を横断する〈デザイン選択〉区分（基礎演習）科目を3年次に配置する。

【総合的な学習経験と創造的思考力】

デザインに関する学際的・総合的な学修の経験によって、社会および文化に寄与できる創造的な思考力と提案力を身につけるため、〈総合演習〉区分（総合演習Ⅰ・Ⅱまたは建築総合演習Ⅰ・Ⅱ）および「卒業研究・制作」の科目を配置する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学公式WEBサイト
<https://www.suac.ac.jp/education/education-policy/admissionpolicy2025/>）

（概要）

デザイン学部は、時代とともに変化する人や社会の価値観、文化の多様性を視野に入れ、さまざまな人の立場で考えるデザインを基本に、快適に暮らせる生活空間や環境を提案し、国際社会の発展や文化の向上に貢献できる人材を育成する。
この教育方針の下、デザイン学科を設置し、以下のような関心と意欲をもつ人を、積極的に受け入れる。

【デザイン学科】

- ・デザイン分野に強い関心をもち、幅広くデザインを学びたい人
- ・論理的な思考にもとづき、新しい価値の創出を目指す人
- ・直観力や審美眼をみがき、自らの発想を的確に表現したい人
- ・地球環境及び社会や地域に関心をもち、現状を分析して対応策を考えようとする人

また、入学者には、以下の基礎能力を身に付けていることを求める。

【知識・理解】

大学において幅広く学ぶために必要な基礎的知識・理解をもつこと。とくに現代社会の重要な課題を理解し、それらの課題の解決のためにデザインの果たす役割を考えるための基礎となる知識を身に付けていること。

【汎用的技能】

大学で学ぶ上で基本となる論理的な文章を読む力および読解した内容をもとに自分で考えたことを説明・表現する力をもつこと。

【態度・志向性】

社会のさまざまな課題への関心をもち、その中から課題を発見し追究していこうとする積極性をもつこと。

【総合的な学習経験と創造的思考力】

自分の関心のある主題について多角的にとらえる力、および、社会・文化の課題の発見や多様な人々との協働のために必要となる論理的思考力・表現力をもつこと。

高等学校などの各教科では、以下の知識・能力を身に付けておくことを求める。

国語：大学での学びの基礎となる読解力、論理的思考力、表現力とそれに関わる幅広い分野の基礎知識

英語：異文化を理解する手段となる英語の読解力、英語による表現力とそれらを支える基礎知識

地歴・公民：日本を含む世界の文化・歴史及び現代社会についての関心と基礎知識

数学・理科：自然科学が扱うさまざまな原理・現象への関心と論理的思考力およびそれらを支える基礎知識

美術：美術に関する基礎的な知識・技能、優れたモノやコトに接した経験、日常生活の中で美しさに気づく鋭敏な感性

情報：問題の発見・解決に資する基本的な情報技術の知識と、それを適切かつ効果的に活用する基礎能力

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：大学公式WEBサイト

https://www.suac.ac.jp/about/education_info/organization.html

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	4人	－					4人
文化政策学部	－	31人	15人	5人	人	人	51人
デザイン学部	－	16人	10人	3人	1人	6人	36人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
人		118人					118人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：大学公式WEBサイト https://www.suac.ac.jp/education/teacher/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文化政策学部	210人	230人	109.5%	840人	962人	114.5%	0人	0人
デザイン学部	110人	120人	109.1%	440人	495人	112.5%	0人	0人
合計	320人	350人	109.4%	1280人	1457人	113.8%	0人	0人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文化政策学部	208人 (100%)	7人 (3.4%)	176人 (84.6%)	25人 (12.0%)
デザイン学部	109人 (100%)	9人 (8.3%)	91人 (83.4%)	9人 (8.3%)
合計	317人 (100%)	16人 (5.0%)	267人 (84.2%)	34人 (10.7%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	0人 (%)
	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	0人 (%)
合計	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	0人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)					
1年間を前期と後期の2つの学期（＝セメスター）に分け、それぞれ15週で授業が開講される。 前期…4月から9月 後期…10月から翌年3月 授業は開講される時期によって次のように分類される。 前期科目： 前期期間中に週に1コマ以上開講される科目 後期科目： 後期期間中に週に1コマ以上開講される科目 通年科目： 1年間の継続開講科目 集中講義科目： 時期的に集中開講される科目（前期、後期それぞれ開講） 授業は原則として1～5時限のいずれかの時限に行なっており、一部の資格課程等の授業は6時限に行うことがある。					
第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限	第6時限
午前9時から 午前10時30分	午前10時40分 から 午後0時10分	午後1時から 午後2時30分	午後2時40分 から 午後4時10分	午後4時20分 から 午後5時50分	午後6時から 午後7時30分

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
学習の成果に係る評価基準は、各科目のシラバスに記載されており、厳格且つ適正な成績評価がなされている。成績評価は、「秀」「優」「良」「可」「不可」とし、「可」以上について、単位認定している。卒業には、4年以上の在学と下記の単位が必要になる。				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要なとなる単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文化政策学部	国際文化学科	128単位	有	半期24単位 ※2
	文化政策学科	128単位	有	半期24単位 ※2
	芸術文化学科	128単位	有	半期24単位 ※2
デザイン学部	デザイン学科	124単位 ※1	有	半期24単位 ※2
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

※1 2024年度以前の入学生は128単位。

※2 2024年度以前の入学生は半期22単位。

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：大学公式WEBサイト https://www.suac.ac.jp/about/campusinfo/

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
文化政策	国際文化	535,800円	県内141,000円 県外366,600円	—	—
	文化政策				
	芸術文化				
デザイン	デザイン				

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要)
各学科、各研究科の教務委員が、学生の修学に関する相談に応じている。 ダイバーシティ推進委員会では、授業配慮が必要な学生の支援方法を検討・調整している。 身体の障害等により、4年の修業年限での卒業が見込めない学生に対しては、6年間での履修を認める長期履修制度を設けている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要)
社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を育成し、全ての学生が希望する進路へ進めるよう、以下のような支援事業を実施した。

就職ガイダンス、キャリアセミナー、個別会社説明会、業界研究セミナー、大学院進学セミナー、ご家族のためのキャリア説明会、資格等試験対策講座、企業訪問及び求人依頼 等

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

学内の保健室及び学生相談室において、学生の心身の健康に関する相談に応じている（保健室：平日毎日、学生相談室：週４日）。また、学校保健安全法に基づき、学生の健康診断を、年１回、全学生を対象として行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：大学公式WEBサイト

https://www.suac.ac.jp/about/education_info/

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F122210106268
学校名 (〇〇大学 等)	静岡文化芸術大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	公立大学法人静岡文化芸術大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		140人（ 0）人	136人（ 0）人	147人（ 0）人
内 訳	第Ⅰ区分	70人	74人	
	（うち多子世帯）	（ 0人）	（ 0人）	
	第Ⅱ区分	37人	42人	
	（うち多子世帯）	（ 0人）	（ 0人）	
	第Ⅲ区分	29人	15人	
	（うち多子世帯）	（ 0人）	（ 0人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	4人	5人	
	区分外（多子世帯）	0人	0人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0人（ 0）人
合計（年間）				147人（ 0）人
（備考）				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	2人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	1人	人	人
計	3人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	1人
3月以上の停学	0人
年間計	1人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)、及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	3人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)、及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が警告の基準に該当)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	9人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	9人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。